

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社 ツェルン		
事業所名	グループホーム・オアシス		
所在地	〒277-0004 千葉県柏市柏下2 1 8 番地 (電 話) 04-7165-1212		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成21年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤13人, 非常勤10人, 常勤換算19.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	単独型
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費30,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(700,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1	要介護2	7
要介護3	6	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.9 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北柏ファミリークリニック・大越歯科クリニック・北柏リハビリ総合病院・四季の里
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはホーム長が実母の介護体験の中で、より良い介護の必要性を痛感して平成15年に開設し今年で7年目を迎える。県内外の志を高く持つ先進事業所を訪ね、自ら研修体験する中で構想を具体化し、環境に恵まれた当地にグループホームオアシスを開設した。建築関係の仕事に従事していた代表が完成させた施設だけに、採光やレイアウト等、随所にこだわりの工夫が取り入れられている。ホーム長を中心に管理者、職員、利用者、家族ともに開設以来の方が多く、ホーム内は穏やかな雰囲気包まれている。特にこだわりの食事には利用者の満足度が非常に高い。まさに砂漠のオアシスのように調和のとれたアットホームなグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は年1度の反省の機会と捉え、積極的に取組んでいる。前回の改善課題についてはホームの実情に合わせて取り入れて、着実に前進させている。特に利用者アンケートからは思わぬ気づきを得ることが多く、職員間で話し合い参考にしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は二つのユニットの管理者のほかに、幹部職員も複数加わって取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	柏市の規定に沿って年3回実施した。市の職員や家族代表に加えて、本年度から加入した町内会の役員にもオブザーバーとして参加願い、地域との連携を深めようとしている。会議で出された意見や要望はスタッフ会議で取上げ改善につなげ、家族にも後日報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に家族と何でも話せる雰囲気作りを特に大切にしている。本人と家族が直接話しづらいことも、職員が相談に乗ったり仲介したりすることも多く、家族の意向は月次のスタッフ会議で共有し改善につなげている。来所の少ない家族には定期的に電話をしてコミュニケーションをとっている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当ホームは住宅区画とは少し離れているが、毎日の散歩時に農作業の方とはすっかり馴染みとなっている。念願の町内会にも加入が実現し、ホームの行事には近隣住民にも参加を呼びかけている。見学や介護の相談には気軽に対応しており、ホーム長は地域の介護に関する講師を務めることもある。ボランティアも継続的に多数受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム長は開所前から各地のグループホームを視察し、立ち上げから関わる職員と共にブレインストーム方式で全員の合意のもとに理念を作り上げた。現場の職員の思いを分かりやすい平易な言葉で現わした独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールや職員のタイムカードの壁に掲げられ、利用者や家族、職員が常に目にしている。また職員はスタッフ会議や日常業務の中で理念を確認し合い、職員全員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは住宅区画とは少し離れているが、毎日の散歩時に農作業の方等とはすっかり馴染みとなっている。念願の自治会にも加入が実現し、ホームの行事には近隣住民の参加を呼びかけている。見学や介護の相談にも気軽に応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は年1度の反省の機会と捉え、積極的に取り組んでいる。今回の自己評価は両ユニットの管理者のほかに幹部職員も複数加わって取りまとめた。特に利用者アンケートからは思わぬ気づきを得ることが多く、改善の材料としている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柏市の規定に沿って年3回実施した。市の職員や家族代表に加えて、本年度から加入した町内会の役員にもオブザーバーとして参加願い、地域との連携を深めようとしている。会議で出された意見や要望はスタッフ会議で取上げ改善につなげ、家族にも後日報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が柏市グループホーム連絡会の役員をしていること、柏市の虐待防止委員会のグループホーム代表委員として活動していることもあり、市の担当窓口とは日常的に連携を取り合い、研鑽に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「オアシスだより」に、事業所の行事や生活ぶりを分かり易く掲載し、また個人別に健康や生活面の変化等を書ける欄を設けて毎月家族に報告している。訪問の少ない家族には個別に電話をして報告や話し合いをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族とは何でも話せる雰囲気作りを特に大切にしており、家族の意向は月次のスタッフ会議で共有し改善につなげている。また外部評価の利用者家族等アンケートでの家族の意向は真摯に受け止めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務体制など、出来る限り職員の個別事情に配慮して永く働ける環境作りに心がけている。永年勤続の職員が多く、ほとんどの職員が両ユニットの利用者になじみとなっている。やむなく離職の場合も利用者之余り意識させないよう配慮し、家族には面会時やオアシスだよりで報告している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は人材育成に特に注力しており、ポストや責任を委譲しながら計画的に、各部門のリーダーの育成に努めている。職員もそれぞれ期待に応じて向上心を持って働いており、離職者も少ない。資格取得や研修への参加も積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会は市内17事業所が加入しNPO法人として活発に活動しているが、ホーム長が役員として運営に携っていること、次女がそのホームページの管理をしていることもあり、同業者との交流は密である。職員や利用者も積極的に行事に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は通常入居前に2泊3日の入居体験をしている。体験後利用者は家族と話し合い入居を決めている。利用者は他の入居者からホーム内の雰囲気や生活について直接聞いたり、食事や入浴など共に生活した上で納得して入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理の仕方、裁縫、編み物など生活全般の知恵を教えてもらうことがある。また利用者は家族に言えない思いを職員に伝えており、職員は家族に利用者の言葉を伝えることでクッションの役目を果たしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の何気ない会話から利用者の意向や希望を聞いている。意思が伝えにくい場合は利用者の立場にたった状況で家族に相談するなど把握に努め、職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者や家族の意向や希望をもとにセンター方式によりアセスメントを実施している。月1回のケア会議では居室担当の職員から各利用者個別の状況報告や意見をもとに介護計画を作成している。作成された介護計画は利用者、家族に説明し合意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や希望に沿って介護計画は定期的には6ヶ月毎に、利用者に変化が生じたときには随時見直しを行なっている。計画作成担当者は家族の面会時、または行事の折など家族に介護計画の説明をし意見を求めている。	○	利用者家族のアンケート結果から、介護計画についての説明や話し合いが不足しているとの意見がみられた。利用者家族の思いや希望をを十分汲みとれているかどうか今後検討いただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は地域への外出や家族が同行できない場合の受診支援（有料）を行なっている。またボランティアの協力を得て敷地内の畑から採りたての野菜が食べられるよう支援している。ホーム長は地域の介護に関する講師や電話相談も積極的に受けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は月2回、歯科医は毎週往診があり、急変時にはいつでも携帯電話で相談できるよう医療との連携体制を整えている。提携医以外のかかりつけ医受診は基本的に家族対応としているが、家族ができない場合は職員が同行している。受診結果は詳細に記録している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者がいない為、今のところターミナルケアを行う予定はないが、利用者が介護度4になった段階で家族に相談している。今後については看護師等の職員体制や利用者の重度化や終末期の介護についての職員のスキル、利用者家族の費用負担など多面的に考慮し検討したいと考えている。	○	利用者の重度化や終末期について利用者や家族の意向をもとに当ホーム内でできること、できないことについて提携医など医療機関も含め十分話し合う機会を設け、今後の方針を検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護のため、常勤・パートに関係なく誓約書を書き、守秘義務を徹底している。日常的には利用者への言葉かけや排泄時、入浴時に自尊心を傷つけないよう配慮している。利用者の自室へは必ず声をかけてから入室している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者毎の生活のペースを大切に考えている。できることは自分でやってもらい、できないことをカバーするよう配慮している。例えば利用者が入浴を躊躇する場合は後にずらし、無理強いしないように「待つ事」を生活全般の中で心がけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	当ホームでは基本的に事前の献立は立てていない。利用者と職員はその日の献立を一緒に考えたり、調理の方法を利用者に聞きながら食事の準備をしている。配膳や下膳についても無理のない程度に利用者が参加している。食事についての利用者の満足度は非常に高い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夏季は毎日、冬季は隔日に実施されている。個別入浴を基本としており、2箇所の個浴槽を利用している。時には仲のよい入居者が一緒に入浴することもあり、利用者の楽しみの支援となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はそれぞれの身体状況や生活歴から調理の下ごしらえや洗濯物たたみ、カーテンを引く係りなど役割を持って生活している。また、利用者同士お互いが見守りの役目を果たしながら助け合っている。個々には読書、手芸、おしゃれなど楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には毎日周辺を散歩している。外出としては2ヶ月に1回程度、買い物や外食など支援している。職員は小グループで外出する機会を増やすよう考えている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には玄関には鍵をかけていない。職員室にはモニターがあり、利用者の様子を見ることができが、ユニットによっては無断で外に出て行こうとする利用者があり、場合によっては家族の希望で施錠することもある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による避難訓練を含め年2回定期的に実施している。その他抜き打ち的に火災想定、地震想定で実施している。防災マニュアルを作成し、避難方法、救助方法を徹底している。夜間想定での訓練はしていない。	○	抜き打ちで避難訓練するなど、熱心に災害対策が実施され、防災マニュアルが作成されている。今後はさらに夜間想定での避難訓練を行い、夜間災害時防災マニュアルの作成を検討いただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に栄養摂取表、水分摂取表を作成している。利用者の状況にあわせ、刻み食、流動食と食形態を工夫している。水分をなかなか摂りにくい利用者にはこまめに勧めるなど個別的な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内外は季節の花で彩られ、採光に特にこだわったホーム内は清潔で明るく居心地のよい工夫が随所に見られる。全館バリアフリーで廊下には手すりが施され、ホーム内でも歩行ができるよう配慮されている。コーナーには入居者が集いやすい談話スペースがあり、楽しく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは居室が一行に配置され、利用者が活動しやすい造りとなっている。利用者毎にそれぞれ生活感のある居室となっており、仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。緑あふれる周辺の様子が全ての部屋の窓から臨むことができ、居心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。